

令和4年度 長野県諏訪清陵高等学校評価表

<p>学校教育目標</p>	<p>～21世紀をたくましく切り拓く人間の育成をめざして～                  ① 一人ひとりの個性・能力の一層の伸長                  ② 自分で考えることができ、意見を積極的に主張できる人間の育成                  ③ 広い視野と「千萬人」の気概を備え、国際社会・地域社会で活躍できるリーダーの育成                  ④ SSHの成果をふまえ、先進的な取組みにより、本校の伝統ある理科・数学教育の発展を図る。将来有為な科学技術系人材の育成をめざすとともに、文系分野にすむ生徒にも、科学・技術を人間・社会との関係まで見通しながら自ら判断し、行動できるための科学的要素を育む。</p>
<p>今年度重点目標</p>	<p>① 課題発見能力の育成、および主体的・対話的で深い学びを追求する授業改善。                  ② 生徒それぞれの進路希望実現のため、学習指導、キャリア教育等の更なる充実と高大接続改革に向けた研究・実践。                  ③ 相談支援態勢の充実と不登校・学校不適應の未然防止に努め、いじめのない学校づくりの推進。                  ④ 開かれた学校づくりを進めるため、地域、生徒・保護者への情報発信に努める。</p>

教育目標	取組	評価の観点	担当分掌	達成度 (5段階)	意見(本年度の取組・次年度への課題等) ○成果、◆課題、■改善策・向上策
<p>課題発見能力の育成 および、主体的・対話 的で深い学びを追求す る授業改善</p>	<p>①授業やテストにおいて、情報分析から課題発見を促すような発問や、答えが一つではない発問を多くし、考察、発表、討論するような機会を多く設ける。                  ②学校設定科目「問題発見」、「課題研究」、SSH諸活動および教科の授業全般において、生徒が自ら課題を発見し探究する機会となるような環境を整える。                  ③自ら考えて課題を見つけ出し改善していくクラブ活動・学友会活動を実現させるために顧問が機会を捉えて助言や指導をする。</p>	<p>①授業アンケートにおいて、評価項目「2興味関心の深まり」および「3自ら学ぶ力の向上」の好意的評価が得られたか。                  ②「課題研究」において、実験やフィールドワークで得たデータに基づく考察を行う研究を増やし、ポスター発表・論文などを質的に向上させることができたか。                  ③学友会活動、クラブ活動に自ら積極的に係ることで、生徒が自身の満足度を高めることができたか。</p>	<p>進路指導係  SSH係  学友会係</p>	<p>4  4  4</p>	<p>○授業アンケート「興味関心の深まり」に対し81.6%が「深まった・大体当てはまる」と回答。また「自ら学ぶ力」に関しては83%が「深まった・大体当てはまる」と回答。一定の成果が見られた。■教科を横断し、教員間でスキル交換等の情報共有を持つ機会を更に企画したい。                  ○前年度中にグループ・テーマ決めを開始したことにより研究開始が早まり、昨年度に比べ実験やフィールドワークで得たデータに基づく研究が増加した。◆データの収集が十分に行っていない研究もあった。■職員研修も含めて、年度内に複数回の研修、ガイダンスを実施している。                  ○時々で変わっていくコロナ状況を踏まえ、文化祭その他の学校行事を運営することが出来た。生徒の自治活動力の向上があった。◆コロナ禍で中止となっていた行事運営の実務について従来のやり方を検証し、継承又は改善をしていく必要がある。■生徒役員組織の活性化や通常の委員会活動の充実など、自治活動への効果的な意欲喚起を行っていく。</p>
<p>生徒それぞれの進路 希望実現のため、学習 指導、キャリア教育等 の更なる充実 および高大接続改革 へ向けた研究・実践</p>	<p>①社会的・職業的に自立した人間の育成を目指し、合同HR、講演会等により、進路意識の向上を図る。また、進路研究への支援を行い、キャリア教育を推進する。                  ②実力テスト、定期考査、校内模試、校外模試の分析をもとに、毎日の家庭学習、補習、テスト前後の学習の質と量の充実を図る。                  ③学力の3要素を育成するとともに、生徒の進路実現につながる探究的取組の実践を行う。</p>	<p>①講演会等実施後のアンケートにおいて、好意的評価が得られたか。                  ②各種テスト後の分析結果に基づき、各生徒の弱点を補うような指導をすることで、半数以上の生徒の学力を向上させることができたか。                  ③学力向上につながるプログラムの中で、より多くの大学、企業等と連携することができたか。</p>	<p>進路指導係  進路指導係  SSH係</p>	<p>4  3  4</p>	<p>○1年職業観の育成・2年学問についての理解を深めるといった目的の下、講演会が実施できた。リモート形式だけではなく、対面での講演会一部実施できた。およそ9割の者が興味関心を示し、同じく9割の生徒が「進路・キャリア意識の向上」について「向上した」と回答。一定の成果が得られた。                  ○学年会や職員会を通じ現状分析に努めた。進路通信や個別の面談を通じ学力向上に努めた。◆成績向上の要因は各生徒によって様々であり、より細かな指導・アドバイスの必要性を感じる。クラブ活動等との両立に課題あり。                  ○県内大学や近隣の機関と連携することで、対面講座やオンライン講座を実施できた。また、他校生徒も参加可能にするなど新たな形・内容の研修講座の実施ができた。◆希望者が少なく参加者の確保が困難な講座もあった■SSH生徒スタッフの活動を活性化させ、生徒告知・参加者の確保を行う。</p>
<p>相談支援体制の充実と 不登校・学校不適應の 未然防止、およびいじ めのない学校づくり</p>	<p>①生徒の立場に立って、心身の状態を深く洞察しつつ、成長を支援するための指導を行う。                  ②社会的マナーの向上や学校生活における全般的なモラルの向上を図る。                  ③いじめを絶対に許さない校風を維持する。</p>	<p>①生徒の相談に十分に対応することで、不登校生徒数を減少させることができたか。                  ②問題行動件数、自転車事故件数を減少させることができたか。                  ③いじめ防止のために、機会を捉えた指導をすることで、いじめ件数をゼロとすることができたか。                  ④いじめの早期発見につながる相談体制を十分に機能させることで、いじめの早期解決を図ることができたか。</p>	<p>生徒指導係  生徒指導係  生徒指導係  生徒指導係</p>	<p>4  4  5  4</p>	<p>○関係部署の連携により、相談のある生徒に対し、保護者を含めSCとのカウンセリングにつなげることが出来た。◆昨年同様、コロナ禍によって生活リズムを崩したり、対人に問題を抱えるなどで不登校(傾向)生徒が一定数いる。■職員の声掛けにより、昨年度よりは減少した。                  ○交通事故は2件でいずれも自転車によるものである。大きな問題行動や被害は発生していない。■交通事故をなくす、特に例年多い自転車事故をゼロにしたい。意識向上のため交通安全教室を充実させる。                  ○いじめの訴えはゼロであった。■今後もいじめゼロをめざし、予防と発見を重視するとともに、生徒の観察を引き続きやっていきたい。                  ○いじめを許さないという姿勢を示す。いじめを発見・発覚した場合は、担任・関係職員・係が一丸となってあたる体制を保っている。■学校に行きたい・学びたいという、やりがいのある魅力ある学校づくりをし、お互いが尊敬しあえる雰囲気づくりを全職員がめざす。</p>
<p>開かれた学校づくり</p>	<p>①教育活動を直接見る機会を設け、学校への理解を深める機会とする。                  ②広報物を活用し、清陵高校・附属中学校の情報を発信していく。</p>	<p>①公開授業、学校説明会、保護者懇談会に多くの方の参加に参加してもらえたか。また、これらの事業を通じ学校への意見要望を吸い上げることができたか。                  ②ホームページの更新頻度を上げること、各種広報物「清水ヶ丘便り」「学校案内」「SSHだより」の発行で、中学生やその保護者に清陵高校の取組を伝え、志願者数を増やすことができたか。</p>	<p>教務係  教務係</p>	<p>4  3</p>	<p>○5/21(土)授業公開:396名来校、7/19(火)～21(木)学校説明会・授業公開:34校から392名来校、10/15(土)課題研究中間発表会:280名来校、12/12(月)～16(金)保護者懇談(1,2年全クラスで実施、3年は共通テスト後実施)。◆感染対策として人数・時間に制限をかけた開催となり、来校者に十分な時間をかけて見てもらうことができなかった。次年度は制限が緩和できる見込み。                  ○行事毎に来校者アンケートを実施。集約結果を職員会で情報共有している。■アンケートにグループ活動が多い中学と学年が進むと講義式授業が増える高校という授業スタイルの違いの指摘があった。継続して授業改善に取り組みが、スタイルの違いを説明する機会を設けたい。                  ◆学校HPについては、昨年以上に更新に努めたが、保護者アンケートで「見にくい」「知りたい情報に辿り着けない」との指摘を受けている。手直しに向け準備に着手する。■アンケートでは学校の様子が伝わって来ないとの指摘も受けた。メール配信システムを使い学校近況を伝える「清水ヶ丘だより校長編」を開始。○学校説明会で設けた学友会長による学校紹介のプレゼンテーションは、来校した中学生・保護者に好評であった。◆各種広報物を作成しているが、配布する機会が増やせず広報効果が限定的である。中学と高校の生徒の活動の様子が届けられるよう「清水ヶ丘便り」「学校案内」の編集に更なる工夫をするとともに、媒体の見直しも含め検討が必要。</p>